

## 2024 年度 第 3 回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2025 年 3 月 21 日（金）10 時 00 分より、秋田商工会議所ホール 80 において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

### （議事内容）

- 場 所 秋田商工会議所 7 階 ホール 80
- 出席者 委員：16 名 オブザーバー：20 名 計 36 名
- 協 議 (1) 秋田市中心市街地活性化プランの変更（案）について  
(2) 2025 年度事業計画（案）・収支予算（案）について  
(3) その他
- 報 告 (1) 秋田市への要望に対する回答  
(2) 令和 7 年クルーズ船寄港予定  
(3) 令和 7 年度コンベンション開催予定  
(4) その他
- 情報提供 (1) 東北経済産業局からの事業紹介

### （発言内容）

#### 【社会長の開会挨拶】

- ・2024 年度は、千秋美術館のリニューアルオープンや千秋公園大手門堀の遊歩道が完成し、景観の変化と新たな回遊動線が生まれ、にぎわいが生まれた。今年 10 月には新佐竹史料館が開館を予定しており、既存施設と連動した芸術文化ゾーンとしての更なる充実が期待される。
- ・ウォーカブルなまちづくりの調査研究として、秋田商工会議所主催で堀 繁 東京大学名誉教授を招いてまちづくりセミナーを開催したほか、前回 12 月の協議会では山形市の先進的な取組について懇談した。来年度は、中心市街地におけるウォーカブルなまちづくりを進めていくため、ワーキングや先進地視察を実施していきたいと考えている。
- ・イベント関連では、これが秋田だ！食と芸能大祭典が 5 月 24 日と 25 日の 2 日間開催が決定しているほか、広小路バザールや商店街等でのイベント開催などが予定されている。
- ・秋田港へのクルーズ船の寄港回数は、昨年を大きく上回る 36 回予定され、台湾チャーター便も 10 月まで延長されることが決まった。インバウンド等への対応を含めて、中心市街地の活性化に向けて皆さまとともに取り組んでいきたい。
- ・本日は、中心市街地活性化プランの変更案と、当協議会の 2025 年度事業計画案および収支予算案について協議いただく。また、令和 7 年のクルーズ船寄港予定とコンベンション開催予定について報告後、東北経済産業局から支援施策を紹介いただく。忌憚のない意見を願いたい。

## 【協 議】

### (1) 秋田市中心市街地活性化プランの変更(案)について

秋田市都市総務課の菊地課長が以下のとおり説明し、原案どおり承認された。

- ・中心市街地では、今年10月の佐竹史料館のリニューアルオープンにより、ハード整備が一段落する。今回の変更では、ソフト事業を中心に新たに8つの事業を追加するほか、実態に合わせて1事業を削除するとともに、名称や事業年度の変更など4つの事業を整理し、ハード11事業、ソフト53事業、計64事業となる。
- ・新たに追加する事業の概要について説明する。「酒と発酵テーマの飲食イベント」は、観光客が落ち込む冬季間に秋田の「酒と発酵」をメインテーマとした飲食イベントを実施し、既存事業とも連携しながら中心市街地の飲食店や観光施設等への周遊に繋げるもの。「道路維持修繕事業(市道千秋久保田町山崎線舗装道改良)」は、駅前三宅ビル隣地の歩道部にキッチンカー等が乗り入れできるよう舗装を改良するもの。「あきた芸術劇場3周年記念事業」は、開館3周年を記念し更なる文化芸術の振興と地域のにぎわい創出および交流人口の拡大を図るため、県出身者のコンサートなどミルハスを核とした文化芸術事業の実施と支援を行うもの。続く3事業は、今年10月にリニューアルオープンする佐竹史料館に関連したもので、「開館準備経費」はサインや外構などの環境整備、「常設展・教育普及等事業」は常設展のほか学習講座や古地図で城めぐりなどの実施、「企画展開催事業」は令和8年度開催予定の千秋美術館との合同企画展の実施に向けた調整や調査を行うもの。「子育て交流室の運営」と「子ども広場運営事業」は、アルヴェやフォンテAKITAで実施している子どもの遊び場や親同士の交流の場を支援するもの。
- ・今回の変更で削除した事業は、事業期間が未定となっていた「(仮称)中通牛島線無電柱化事業」で、令和6年3月に策定された第二次秋田市無電柱化推進計画において中心市街地活性化プランの計画期間内での対象工事とならないこととなったため削除するもの。
- ・主な変更の説明は以上だが、事業の追加および削除に伴い事業数等も併せて整理している。なお、本日説明した変更案に対し、3月中に本協議会から意見をいただいた上で、秋田市ホームページに変更後のプランを掲載する予定としている。

### <意見・質問>

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- ・事業リストに記載の各事業の事業期間について、年度単位で示されているが、月別に示した方が各事業の実施状況がよりわかりやすくなると思うので月別に記載してはどうか。

秋田市都市総務課の菊地課長が以下のとおり発言した。

- ・庁内に持ち帰り検討する。

### (2) 2025年度事業計画(案)・収支予算(案)について

事務局が以下のとおり説明し、原案どおり承認された。

#### (会 議)

- ・協議会は、3回(第1回:6月、第2回:12月、第3回:3月)開催し、その他状況に応じて会長が招集し開催する。

(事業 1：芸術文化ゾーン活用研究会)

- 芸術文化ゾーン活用研究会を 7 月に開催し、同ゾーン内の各施設や商店街、民間事業者、行政機関等が連携することで同ゾーンを活用した活力あるまちづくりと、その実現に向けた方策について調査・研究する。

(事業 2：アートなまち歩き発信事業)

- 中心市街地における文化・商業施設の催事情報等を掲載した「アートなまち歩き」の年 4 回の発行により、各施設への来場を促すとともに、来街者の回遊性の向上へと繋げる。また、同ウェブサイトの情報充実と適時発信に努めるほか、関係機関等との連携によりアクセス数の更なる増加へと繋げていく。

(事業 3：広小路バザールの開催支援)

- 中心市街地の定期的な賑わい形成と県内事業者の出店機会の創出を目的とする広小路バザールの開催を支援する。

(事業 4：千秋蓮まつりの開催支援)

- 秋田市における都市型観光の魅力向上と観光消費の拡大を目的とする千秋蓮まつり 2025 の開催を支援する。

(事業 5：情報発信事業)

- ポポロード、にぎわい交流館 AU、あきた芸術劇場ミルハスに設置するパンフレットスタンドや中心市街地循環バス「ぐるる」の車内広告などを活用し、構成団体が実施する事業を広く周知する。

(事業 6：ウォークアブルなまちづくりに関するワーキング・先進地視察の実施)

- まちなかを車中心から人中心の空間へと転換を図る「ウォークアブルなまちづくり」について研究し、秋田市中心市街地における可能性と在り方を探る。内容は、公園や道路などの公共空間を活用した人々が集い憩うような空間づくりに向けたワーキングを 4 月より順次実施し、12 月開催の第 2 回協議会で中間報告を行い、3 月開催の第 3 回協議会で次年度活動内容（実証事業等）を報告する。対象者は、秋田市関係課と当所、学識経験者等のオブザーバーのほか、検討箇所に応じて商店街などの関係者を招集する。検討箇所は、秋田駅前歩道（三宅ビル隣地）、東側ポケットパーク、なかいち にぎわい広場植栽スペース、西側ポケットパーク、仲小路のほか、都市計画道路川尻広面線（横町工区）は今後の整備状況を見据えながら対応を検討する。また、本市に近い気候条件で大規模なハード整備や新交通システムなどに頼らない既存施設や空間・制度の活用を推進し、2021 年よりほこみち制度を活用した社会実験に取り組んでいる福井県福井市への先進地視察を実施する。

(事業 7：秋田駅前歩道（三宅ビル隣地）の活用)

- 秋田市道路占用許可のもと駅前周辺エリアの賑わい創出に向けて飲食店等へ出店機会を提供する。

(事業 8：まちなカフェセット等の利用推進)

- 中心市街地の賑わい創出と新たな出店を促進するため、まちなカフェセット（テーブル・イス）やクイックテント等を貸し出す。

(2025 年度収支予算案)

- 収入の部／負担金 200 万円（内訳：秋田市・秋田商工会議所から各 100 万円）、雑収入 1,000 円（預金利息）、前年度繰越金 120,738 円をそれぞれ計上し、収入合計金額 2,121,738 円。

- ・支出の部／会議費 75,000 円（内訳：委員謝金 60,000 円、案内発送代・会場使用料 15,000 円）、事業費 1,955,000 円（内訳：アートなまち歩き発行、ウェブサイト運営管理費 840,000 円、広小路バザール事業 700,000 円、千秋蓮まつり事業 300,000 円、情報発信事業 55,000 円、ウォーカブルなまちづくり先進地視察 50,000 円、東北地域中活協議会等交流会 10,000 円）、事務費 20,000 円、予備費 71,738 円をそれぞれ計上し、支出合計金額は収入合計金額と同額 2,121,738 円。

#### <意見・質問>

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- ・アートなまちあるきマップは、秋田市外から訪れる方々が距離感を把握し、まちあるきを楽しめるよう縮尺記号を追加した方が良い。

秋田公立美術大学の小杉委員が以下のとおり発言した。

- ・ウォーカブルなまちづくりに関するワーキングについて、検討箇所以外の整備済みで活用可能と考えられる公共空間においても、これまでの整備内容や活用状況等を含め検証が必要。

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・秋田駅周辺には、今後、新たな人口流入が予想され、一昨年の水害を踏まえた避難所に関する情報発信も是非検討して欲しい。

秋田市企画調整課の小杉山課長が以下のとおり発言した。

- ・ウォーカブルなまちづくりに関するワーキングについては、庁内の芸術文化ゾーンまちづくり推進プロジェクトチームで共有しながら、秋田駅駅前西口広場や芸術文化ゾーンでのこれまでの活動状況等を検証したい。また、避難所情報については、秋田市公式サイト（芸術文化ゾーン）を昨年リニューアルし、芸術文化ゾーンまち歩きマップやバリアフリー情報も公開しており今後検討したい。

#### 【報 告】

##### （１）秋田市への要望に対する回答

事務局が以下のとおり報告した。

- ・昨年 11 月に開催した秋田市と秋田商工会議所との懇談会において、秋田商工会議所から秋田市市長へ手交した要望書に対する秋田市からの回答から中心市街地関連のみを抜粋して報告。

（秋田市観光振興マスタープランの策定）

- ・交流人口の拡大や観光地としての高付加価値化、魅力あるまちづくりの計画的かつ継続的な推進に向けて、地域の観光資源を最大限に活用する戦略的な指針となる観光推進計画を本市においても策定いただきたいとする要望に対して、同プランなどの個別計画は必要と認識し、他都市の状況などの調査を行っており、計画期間などを含め、観光分野の特性に合った計画の内容について調査・研究をし、策定に向けた準備を進めていくとの回答。

(あきた市へのインバウンド誘客の推進)

- 東北で最下位となっている外国人旅行者の受入状況を踏まえ、さらなる外国人旅行者の呼び込みに向け、秋田市の魅力発信とともに外国語案内表示等の充実など、インバウンド誘客に積極的に取り組んでいただきたいとする要望に対して、民俗芸能伝承館や赤れんが郷土館など12施設にQRコードによる施設案内や展示解説等の多言語化を行っているほか、あきたおさんぽマップやあきた観光パスポートなどで効果的な情報発信に努めており、今後も対象の拡充や案内誘導の強化などに取り組み、外国人観光客への対応に努めていくとの回答。

(川反の空き家・空きビル所有者意向調査)

- 川反地区の老朽化により適切な管理がなされていない空きビルについて、観光客の受入や地域経済の活性化を図るうえで繁華街・川反地区の環境改善は不可欠であることから、大町5丁目エリアに点在する空きビル所有者への意向調査の実施と有効活用に向けた助言や指導を行っていただきたいとする要望に対して、不適切な管理により周辺への悪影響を及ぼし得る建築物の調査把握に努めているところであり、管理が不適切と判断された建築物の所有者等に対しては、必要に応じ、適正な管理に助言指導を行っていくとの回答。

(中心市街地の活性化に向けた取組への継続支援)

- 5月開催の「これが秋田だ！食と芸能大祭典」と当所「広小路バザール」の継続開催に向けた支援を求める要望に対し、両イベント共に引き続き支援していくとの回答。

(ウォークブルなまちづくりの推進)

- 当協議会での取り組みなどを踏まえ、中心市街地の公共空間の活用に関するワークショップの開催など、官民一体となった取り組みを推進していただきたいとする要望に対し、秋田市中心市街地活性化プランでは、中心市街地全体の回遊性の向上を課題としており、ウォークブルなまちづくりの重要性は認識しているとし、今後は公共空間のより有効な活用等に向け当所とも連携を図っていくとの回答。

(秋田市の歴史と久保田城址千秋公園の魅力を活かした観光地域づくり)

- 佐竹史料館の建替え完了後、久保田城址千秋公園および芸術文化ゾーンを周遊する城下町観光が楽しめる千秋公園周辺のサイン整備やソフト事業を推進いただきたいとする要望に対して、秋田市の歴史や千秋公園等の魅力を活かしたソフト事業の展開と必要なサインの整備など、千秋公園周辺の周遊が図れるよう関係各所と効果的な施策を検討するとの回答。

(秋田市のナイト観光の更なる充実に対する継続支援)

- 秋田観光コンベンション協会の千秋公園蓮の花ライトアップ事業と連携する当所「千秋蓮まつり」の継続開催に向けた支援を求める要望に対して、昨年7月に開通した大手門の堀遊歩道は、より楽しんでいただけるようライトアップの手法を見直したところであり、今後もナイト観光の定着に向けた支援を継続するとの回答。

## (2) 令和7年クルーズ船寄港予定

秋田県建設部港湾空港課の佐々木主任が以下のとおり報告した。

- クルーズ船は乗客に船旅を提供する旅客船で、船籍によって日本船と外航船に分類され、現在日本船は飛鳥Ⅱとにっぽん丸の2隻。外国船は、カボタージュ制度により海外港湾に寄港しなければならないため外航クルーズになるが、日本船は国内港湾のみに寄港できるので内航クルーズとなる。また、クルーズ船の運行には船社自らが集客し運行する自主クルーズと、旅行会

社や企業がクルーズ船内の全部又は一部を貸し切り集客するチャータークルーズがある。日本企業がチャーターする場合は日本国内で集客するため、乗客のほとんどが日本人となる傾向がある。世界のクルーズマーケットは、サービスレベルの高い順にラグジュアリー（約 4%）、プレミアム（約 16%）、カジュアル（約 80%）の 3 クラスに大別されている。サービスレベルの目安は、乗船客に対する乗組員の比率やスペース比率によって判断され、日本船ではにっぽん丸がプレミアム船に、飛鳥Ⅱはラグジュアリー船に区分されている。

- 乗船客はオプションツアーに申し込んで観光するほか、秋田市中心市街地で自由に観光を楽しむ方もいる。概ね 2,000 人以上のクルーズ船の寄港時に、シャトルバスの降車場所となる秋田キャッスルホテルに観光案内所を設けて、エリアなかいちで竿燈やあきた舞妓の舞踊、民謡などを披露した。また、アザマラ・ジャーニーが寄港した際には、船内ホールにてなまはげ太鼓の演奏を披露したほか、通町商店街ではお茶の体験や地域イベントの PR、誘導も行っていただいた。
- 令和 7 年はコロナ前を大幅に上回る 38 回の寄港数となる見込みで、特に 4 月は寄港回数が多く、1 か月で 15 回の寄港を予定している。内訳は、秋田港が外航 33 回と内航 3 回合わせて 36 回、船川港が内航 1 回、能代港が外航 1 回となり、コロナ前と比較して外航船の寄港数が急激に増加している。小型のラグジュアリー船から大型の客船まで幅広いタイプの客船が入港を予定しており、初寄港となるクルーズ船はアザマラ・パシュート、アイーダ・ステラ、バイキング・エデン、アンセム・オブ・ザ・シーズ、シーニック・エクリプスⅡ、ハンセアティック・インスピレーション、三井オーシャンフジ、シルバー・ノバ、飛鳥Ⅲ、シーボーン・クエスト。三井オーシャンフジは 2024 年 12 月に就航した新しい客船で、全室スイートルームのラグジュアリー船。また、船川港に寄港予定の飛鳥Ⅲも 2025 年 7 月に就航予定の新しい客船。
- 日本を航行する客船で最大級の MSC ベリッシマが令和 7 年は 9 回寄港を予定している。4 月 9 日の MSC ベリッシマは MSC クルーズによる自主クルーズだが、4 月 15 日～11 月 6 日の MSC ベリッシマはジャパネットによるチャーターで運行しており、お客様の大半が日本人となる見込み。クルーズ船の寄港予定は今後変更となる可能性があり、最新の寄港予定は美の国あきたネットに掲載しているため HP で確認いただきたい。

#### <意見・質問>

秋田市通町商店街振興組合の青井委員が以下のとおり発言した。

- 昨年はクルーズ船の寄港に合わせて様々な催しを企画し、商店街への誘客の強化に努めたが、地域でお金を使ってもらう仕掛けづくりが課題と感じた。昨年秋頃、秋田商工会議所を通じて県や秋田市、秋田観光コンベンション協会と意見交換を行ったが、今後、各商店街はもとより中心市街地全体で外国人旅行者の誘客と観光消費の拡大に向けた協議の場があればと感じる。

秋田市観光振興課の高嶋課長が以下のとおり発言した。

- 関係各所と連携を図りながら今後検討を進めたい。

#### 〔3令和 7 年度コンベンション開催予定〕

秋田観光コンベンション協会の佐々木参事が以下のとおり報告した。

- 当協会が把握する令和 7 年度における秋田市内でのコンベンション開催件数は 90 件（東北・全国・国際規模 77 件、県内規模 13 件）。主なコンベンションとしては、第 57 回日本医学教育学会大会 in AKITA（7 月 24～27 日/参加総数 1,800 人）、Global Offshore Wind Summit Japan2025（10 月 15 日～17 日/参加総数 700 人）を予定。
- コンベンション参加者の消費拡大を図るため、大型コンベンション開催時に川反エリアを含む秋田市中心部の飲食店で利用できるモバイルクーポン事業を実施する予定。参加数 30～40 店舗で 7 月から 10 月まで最大 5 回程度実施する。クーポン内容は、ドリンク 1 杯無料や料金割引など各店舗にて決定。
- 公式 WEB サイトにて、秋田市内で開催予定のコンベンションに関する状況を公開しており、公開情報をもとに各飲食店等においても地場産品を生かした期間限定メニューを準備いただくなど街全体で来訪者の受入体制を充実させ、コンベンション開催による地域への波及効果の最大化を図りたい。

#### 【情報提供】

##### （1）東北経済産業局からの事業紹介

#### 【その他】

##### <意見・質問>

NPO 法人秋田バリアフリーネットワークの木谷委員（代理）が以下のとおり発言した。

- 昨年 7 月に供用が開始された大手門堀の遊歩道を通行した際に、目線よりも蓮の背丈高く、車いす利用者でも蓮の観賞が楽しめるような設計にして欲しいと感じた。
- 今年 10 月には新佐竹史料館の開館が予定されているが、千秋公園内コインパーキング（松下門跡付近）はロック板の影響で車いすの乗降に不便を感じているため、優先駐車場の設置とわかりやすい案内表示をお願いしたい。また、二の丸跡も舗装部分に段差がある影響で、車いすで移動すると頭が揺れて具合が悪くなってしまうので舗装部分についても整備を望む。
- 当協議会は、中心市街地のまちづくりや賑わい創出について検討を進めているようだが、障害を持つ方々にとっても来街しやすい、優しいまちづくりも是非目指して欲しい。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

- ご指摘の点を関係課で共有のうえ個別に対応させていただく。

閉 会